

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 19 年 7 月 12 日 (2007.7.12)

【公開番号】特開 2005-347426 (P2005-347426A)  
 【公開日】平成 17 年 12 月 15 日 (2005.12.15)  
 【年通号数】公開・登録公報 2005-049  
 【出願番号】特願 2004-163892 (P2004-163892)  
 【国際特許分類】

**H 0 1 L 21/205 (2006.01)**

**C 2 3 C 16/50 (2006.01)**

【F I】

H 0 1 L 21/205

C 2 3 C 16/50

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 5 月 30 日 (2007.5.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 6】

ここで、図 4 ( a ) は、図 1 や図 2 に示す板状電極 ( 円筒状電極 ) 1 2 を示したものであり、垂直吹き付けガス流のガス流れ方向中心軸 2 0 から等距離に位置するように 1 枚の連続した円筒状電極 1 2 が設けられている。

図 4 ( a ) に示す例は、垂直吹き付けガス流のガス流れ方向中心軸 2 0 から等距離に放電面が位置しており、理想的な電極形状ではある。しかし、半導体製造装置のメンテナンス性の向上や、装置構造の簡素化等、実用的な面も考慮した場合、図 4 ( b ) ( c ) に示すように、1 枚の連続した円筒状電極を 4 つの部分に分割 ( 電極 3 3 a、3 3 b、3 3 c、3 3 d ) したものであってもよく、放電面が平坦な電極 ( 電極 3 4 a、3 4 b、3 4 c、3 4 d ) を 4 つ用いたものであってもよい。

この場合、4 つの電極の各々に図 1 や図 2 に示されるようなアース配線が接続されたアース電極が電極の外周側に配置されると共に、R F ( 高周波 ) 導入端子が接続される。